

国語 1 スピーチをする（「最近気になったこと」）

1 川口さんは、国語の時間に、最近気になったことについてスピーチをする学習に取り組んでいます。川口さんは、動画に自分のスピーチを記録し、それを田中さんに見せて助言をもらっています。次の「川口さんのスピーチ」と「二人の会話の一部」を読んで、あとの問いに答えなさい。

川口さんのスピーチ

最近、ふだんの生活がこれまでとは違うものになってきていると感じます。その変化は、学校での学習にも表れていると思います。例えば、授業でインターネットを活用する機会が増えました。特に、オンラインで離れた場所にいる人と会話をすることもできて、その便利さを実感しています。一方で、相手と直接会っていないので、やりとりをスムーズに行にくいという面もあるのではないかと思います。

動画を止める

先日、総合的な学習の時間で、離れた場所にいる友達の方にオンラインでインタビューをしたことです。私は、画面を通してやりとりをしているという状況に気を取られて、相手に必要最小限

二人の会話の一部



田中さん 川口さん

田中 ここで動画を止めてもええですか。「最近、ふだんの生活がこれまでとは違うものになってきている」と感じます。」という部分は、聞き手を引き付けるために、呼びかけたり問いかけたりする表現にしてみてもどうでしょうか。「やりとりをスムーズに行にくい」という部分は、私も同じように感じたことがあり、この後のスピーチの内容に興味をもつことができただけだと思います。

川口 ありがとうございます。

のことを伝えるだけで精一杯になってしまいました。そのため、相手の反応を踏まえたやりとりをすることができていないと感じました。後日、そのことを友達に話したところ、「私は、相手の言ったことにに対して相づちを打つように気を付けていました」と話してくれました。

動画を止める

この言葉を聞いてはっとしました。オンラインであっても、相手が話したことに相づちを打ったり、相手の話を受けとらに質問をしたりするように意識することが大事だったので、これからは、オンラインで人と話すときにも、このことに気を付けて、相手とのやりとりをスムーズに行えるようにしたいと思っています。

動画を止める

田中 川口さんが伝えたい内容は分かりました。ただ、スピーチの冒頭から同じ調子で話しているの、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などの話し方を工夫してみてもどうでしょうか。例えば、「オンラインで離れた場所にいる人と会話をすること」という部分は、伝えたい内容に関係することなので、聞き手に関心をもってもらうために、ゆっくり大きな声で話すといふのではないのでしょうか。

川口 なるほど。他の部分も話し方を工夫してみます。

一 川口さんは、「二人の会話の一部」の「線部①」呼びかけたり問いかけたりする表現にしてみてもどうでしょうか。という田中さんからの助言を受け、「最近、ふだんの生活がこれまでとは違うものになってきていると感じます。」という部分に言葉を加えて直すことにしました。あなたならどのように直しますか。実際に話すように書きなさい。

二 「二人の会話の一部」で田中さんは、「線部②」始めに話したところにつながついている点が良い」と述べていますが、これを具体的に説明したものとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 インターネットの「便利さを実感」していることの例として、総合的な学習の時間での自分の経験を挙げている点が良い。
- 2 インターネットの「便利さを実感」していることの例として、友達と話してくれた言葉を挙げている点が良い。
- 3 「やりとりをスムーズに行にくい」ということの例として、総合的な学習の時間での自分の経験を挙げている点が良い。
- 4 「やりとりをスムーズに行にくい」ということの例として、友達と話してくれた言葉を挙げている点が良い。

三 「二人の会話の一部」に「線部③」他の部分も話し方を工夫してみます」とありますが、あなたならどの部分をどのように工夫して話しますか。次の条件1と条件2にしたがつて書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 「川口さんのスピーチ」のどの部分をどのように工夫して話すのかについて、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに着目して具体的に書くこと。

条件2 条件1のように話す意図を書くこと。

※ 左の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

--	--	--	--	--

出題の趣旨

- ・ 聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫すること
- ・ 論理の展開などに注意して聞くこと
- ・ 自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話すこと

「A話すこと・聞くこと」の学習においては、「話題の設定、情報の収集、内容の検討」、「構成の検討、考えの形成（話すこと）」、「表現、共有（話すこと）」、「構造と内容の把握、精査・解釈、考えの形成、共有（聞くこと）」、「話し合いの進め方の検討、考えの形成、共有（話し合うこと）」に関する各指導事項を身に付けることができるように、意図的・計画的に指導を重ねることが大切である。「話題の設定、情報の収集、内容の検討」に関する指導事項は、「話すこと」、「聞くこと」、「話し合うこと」に共通する指導事項である。指導計画の作成に当たっては、「A話すこと・聞くこと」の学習は、話し手と聞き手との関わりの中で成立する学習であり、「話すこと」、「聞くこと」、「話し合うこと」の各指導事項は相互に密接な関連があることに留意する必要がある。

スピーチなどの言語活動を行う際には、話し手は、自分の伝えたいことを聞き手に分かりやすく伝えるために、場の状況や聞き手の興味・関心、情報量などを考慮しながら、聞き手に応じた語句を選択したり、話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、言葉遣いなどに注意したりして話すことが大切である。また、聞き手のうなずきや表情にも注意し、話の受け止め方や理解の状況を捉え、聞き手に自分の考えが十分伝わっていないと感じられたときには、分かりやすい語句に言い換えたり内容を補足したりすることも重要である。聞き手は、話の展開に注意しながら内容を聞き取り、互いの考えを比較したり、聞き取った内容や表現の仕方を評価したりすることが大切である。

本問では、自分のスピーチを動画に記録して友達から助言をもらう場面を設定した。聞き手を引き付けるような表現になるようにスピーチの内容を直したり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などの話し方について考えたりすることに加え、スピーチについて聞き手がどのように受け止めているかについて考えることを求めている。

■学習指導要領に示されている言語活動例との関連

〔第1学年〕 思考力、判断力、表現力等 A 話すこと・聞くこと

ア 紹介や報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問したり意見などを述べたりする活動。

〔第2学年〕 思考力、判断力、表現力等 A 話すこと・聞くこと

ア 説明や提案など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問や助言などをしたりする活動。

(参考)

〔第3学年〕 思考力、判断力、表現力等 A 話すこと・聞くこと

ア 提案や主張など自分の考えを話したり、それらを聞いて質問したり評価などを述べたりする活動。

設問一

趣旨

聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫することができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第1学年〕 思考力、判断力、表現力等 A 話すこと・聞くこと

ウ 相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。 《表現、共有（話すこと）》

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答
①	一 (正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ① 「最近、ふだんの生活がこれまでとは違うものになってきていると 感じます。」という部分について、どのような言葉を加えて直すと呼び かけたり問いかけたりする表現になるかが分かるように書いている。 ② 実際に話すように書いている。 (正答例) ・ 皆さん、最近、ふだんの生活がこれまでとは違うものになってきて いると感じませんか。 ・ 最近、ふだんの生活がこれまでとは違うものになってきていると感 じます。皆さんもそう思いませんか。		
	1 条件①、②を満たして解答しているもの	75.0	◎
	2 条件①を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの	0.2	
	3 条件②を満たし、条件①を満たさないで解答しているもの	19.4	
	99 上記以外の解答	1.6	
	0 無解答	3.7	

2. 分析結果と課題

○ 解答類型3について、具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ 皆さんの中で、最近、ふだんの生活がこれまでとは違うものになってきていると感じたことのある人もいます。

このように解答した生徒は、話し手の伝えようとしている内容を踏まえることはできているが、どのような言葉を加えて直すと、呼びかけたり問いかけたりする表現になるかについて考えることができていない。

- (例)

 - ・ 最近、これまでとは違っていませんか。
 - ・ 皆さんもふだんの生活でインターネットを使用しているのではないのでしょうか。

このように解答した生徒は、呼びかけたり問いかけたりする表現にすることはできているが、話し手が伝えようとしている内容を伝えることができていない。

3. 学習指導に当たって

聞き手を意識し、自分の考えが分かりやすく伝わるように工夫する

自分の考えを話す際には、場の状況や聞き手の興味・関心、情報量などを考慮しながら、聞き手に応じた語句を選択したり、呼びかけや問いかけをしたりするなどして、相手に分かりやすく伝わるように表現を工夫することが大切である。

例えば、複数のスピーチを比較し、それぞれの話し方の工夫について確かめるなどの学習活動が考えられる。その際、ペアやグループでそれぞれのスピーチを比べたり、他学年のスピーチの動画を視聴したりして、分かりやすく伝えるための具体的な工夫について考えるように指導することも重要である。

設問二

趣旨

論理の展開などに注意して聞くことができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

- 〔第2学年〕

思考力、判断力、表現力等

A

話すこと・聞くこと

エ

論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。

《構造と内容の把握、精査・解釈、考えの形成、共有（聞くこと）》

1. 解答類型と反応率

問題番号		解 答 類 型		反応率 (%)	正答
1	二	1	1と解答しているもの	11.0	◎
		2	2と解答しているもの	5.9	
		3	3と解答しているもの	65.6	
		4	4と解答しているもの	17.4	
		99	上記以外の解答	0.0	
		0	無解答	0.1	

2. 分析結果と課題

- 解答類型1、2、4の反応率の合計は34.3%である。このように解答した生徒は、話し手が伝えようとしている内容と、その内容を分かりやすく伝えるために挙げた事例との関係を捉えることができず、話全体がどのようにまとめられようとしているのかを考えることに課題がある。

解答類型1、2の生徒は、川口さんが「一方で、相手と直接会っていないので、やりとりをスムーズに行いにくい」と述べていることを捉えることができていないものと考えられる。解答類型4の生徒は、「やりとりをスムーズに行うための方法の一つである「相手の言ったことに対して相づちを打つように気を付けていました」という「友達が話してくれた言葉」を、「やりとりをスムーズに行いにくい」ということの例と捉えたものと考えられる。

3. 学習指導に当たって

情報同士の結び付きに注意しながら聞く

話し手の考えを聞いて自分の考えをまとめる際には、情報同士の結び付きに注意しながら、話の要点を捉えたり、意見に対する根拠の適切さを判断したりして聞くことが大切である。その際、第2学年〔知識及び技能〕の(2)「ア 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解すること。」との関連を図り、意見を裏付けるためのより適切な根拠の在り方について理解を深めるように指導することが有効である。

例えば、互いのスピーチを聞き合って質問や助言をする場面を設定するなど、自分が聞き取って理解したことや考えたことを確かめたり共有したりするなどの学習活動が考えられる。

設問三

趣旨

自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話すことができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第1学年〕 知識及び技能

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

ア 音声の働きや仕組みについて、理解を深めること。 《話し言葉と書き言葉》

〔第1学年〕 思考力、判断力、表現力等 A 話すこと・聞くこと

ウ 相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。 《表現、共有（話すこと）》

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率(%)	正答
①	三	(正答の条件) ① 【川口さんのスピーチ】の中から、「オンラインで離れた場所にいる人と会話をする」という部分以外を具体的に取り上げて書いている。 ② ①で取り上げた部分をどのように工夫して話すのかについて、以下のa、bの両方またはいずれかに着目して具体的に書いている。 a 言葉の抑揚や強弱、間の取り方など音声での表現の仕方に着目した工夫。 b 視線の方向など、a以外の話し方の工夫。 ③ ②のように話す意図を書いている。	
		(正答例) ・ 「オンラインであっても、相手が話したことに相づちを打ったり、相手の話を受けてさらに質問をしたりするように意識することが大事だったのです。」という部分が一番伝えたいことなので、他の部分よりも大きな声で話す。(解答類型1) ・ 私は、自分が一番伝えたいことに着目してもらうために、「この言葉を聞いてはっとしました。」のあとに少し間を取ります。(解答類型1) ・ 「相手の反応を踏まえたやりとりをすることができていない」という部分の語調を強めて、課題だと感じていることを強調したい。(解答類型1) ・ 「やりとりをスムーズに行いにくいという面もある」の部分の印象を強めるために、聞いている人たちを見渡しながらか話す。(解答類型2)	
	1	条件①、②a、③を満たして解答しているもの * ②bを同時に満たして解答しているものを含む。	52.1 ◎
	2	条件①、②b、③を満たして解答しているもの	0.2 ◎
	3	条件①、②を満たし、条件③を満たさないで解答しているもの	5.7
	4	条件①、③を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの	3.9
	5	条件②、③を満たし、条件①を満たさないで解答しているもの	8.5
	99	上記以外の解答	13.6
	0	無解答	15.9

2. 分析結果と課題

○ 解答類型3について、具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ 「オンラインであっても、相手が話したことに相づちを打ったり、相手の話を受けてさらに質問をしたりするように意識することが大事だったのです。」という部分をゆっくり大きな声で話す。
- ・ 「この言葉を聞いてはっとしました。」の「はっと」のところを強く言ったらよいと思う。

このように解答した生徒は、【川口さんのスピーチ】の中から工夫したい部分を取り上げて、どのように工夫して話すのかについて具体的に考えることはできているが、そのように話す意図を示すことができていない。

- 解答類型4について、具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ 「私は、相手の言ったことに対して相づちを打つように気を付けていました。」という部分は、大切なことなので、強弱を工夫して話すとよいと思います。

このように解答した生徒は、【川口さんのスピーチ】の中から工夫したい部分を具体的に取り上げて、その部分を工夫する意図を示すことはできているが、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを、どのように工夫して話すのかについて具体的に考えることができていない。

- 解答類型5について、具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ 聞いている相手に、どこが自分の一番伝えたいところなのかを知ってもらうために、その部分をゆっくり大きな声で強調して話すとよいのではないのでしょうか。

このように解答した生徒は、どのように工夫して話すのかについて具体的に考え、そのように話す意図を示すことはできているが、【川口さんのスピーチ】の内容を踏まえて話のどの部分を工夫するのかを具体的に考えることができていない。

3. 学習指導に当たって

音声の働きや仕組みを意識しながら表現を工夫して話す

自分の考えが分かりやすく伝わるように話すためには、聞き手に応じた語句を選択したり、話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、言葉遣いなどに注意したりするなどして、表現を工夫することが大切である。指導に当たっては、第1学年〔知識及び技能〕の(1)「ア 音声の働きや仕組みについて、理解を深めること。」との関連を図り、アクセント、イントネーション、プロミネンス（文中のある語を強調して発音すること）などの音声的特質が多様な声を作り出し、話したり聞いたりする活動に影響していることが認識できるように、実際に声に出しながら工夫を考えたり効果を確認したりすることが重要である。

例えば、ICT 機器を活用してスピーチの様子を動画で記録し、話し方を振り返ったり、工夫したことの効果を確認したりするなどの学習活動が考えられる。その際、聞き手の興味・関心、情報量などを考慮しながら話す内容や話し方を検討したり、なぜそのように表現を工夫したのか、その意図を明確にして工夫したことの効果を確認したりする場面を設定することも考えられる。具体的な授業のアイディアの一例を次に示す。

授業アイディア例 音声の働きや仕組みを意識しながら表現を工夫して話す

【課題の見られた問題と学習指導要領における内容】

- 設問三 正答率 52.3%
- 〔第1学年〕知識及び技能 (1)
- ア 音声の働きや仕組みについて、理解を深めること。
- 〔第1学年〕思考力、判断力、表現力等 A
- ウ 相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。

- 教材例
- 令和4年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語¹
 - 教師が作成したスピーチ、教科書に掲載されているスピーチ

学習の流れ

第1時

① 学習の見通しをもつ。



教師

「最近気になったこと」について、自分の考えが聞き手に分かりやすく伝わるように工夫してスピーチをする学習をします。まずは、自分が話す内容を決め、実際にスピーチをしてみましょう。次に、スピーチをする上での工夫についてみんなで考え、自分のスピーチに生かしましょう。

- ② スピーチの内容を考える。
- ③ 各自で実際にスピーチを行い、その様子を動画に記録する。

第2時

④ 教師が提示したスピーチの内容を基に、表現の工夫について考える。



教師

自分だったらどこをどのように工夫するのかを、書き加えましょう。その際、どうしてそのように工夫するのか、その意図についても明確にしておきましょう。

〔生徒が表現の工夫を書き加えたワークシートの一部〕

聞き手に考えが分かりやすく伝わるように、
表現を工夫しよう。

スピーチのテーマ「最近気になったこと」

問いかけ
最近、ふだんの生活がこれまでとは違う
ものになってきていると感じます。その変化
は、学校での学習にも表れていると思い
ます。例えば、授業でインターネットを
活用する機会が増えました。

少し間を取る
はっきり発音する

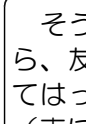
この言葉を聞いてはっとしました。オン
大きな声でゆっくり
ラインであつても、相手が話したことに相
づちを打ったり、相手の話を受けてさらに
質問をしたりするように意識することが
大事だったのです。

⑤ 考えた工夫とその意図を伝え合い、実際に声に出して試しながら交流する。

〔交流している場面の例〕



私だったら、聞き手が話題に興味をもってくれるように最初のところで問いかけたいと思います。「最近、ふだんの生活がこれまでとは違うものになってきていると感じませんか。」どうでしょう。



そうですね。問いかけられると、自分はどうなのか考えさせられますね。私なら、友達の言葉によって気付かされたことを強調したいので、「この言葉を聞いてはっとしました。」のところが驚いたように言いたいです。やってみますね。(声に出してみる)



確かに、驚いたことは伝わります。それもよいのですが、むしろ何にはっとしたかを伝えることが大事なので、私ならその後の部分をゆっくり言います。

ポイント

表現の工夫はいろいろありますが、自分の考えを分かりやすく伝える上で必要なところに、適切な表現の工夫をすることが大切です。自分のスピーチの表現も工夫してみましょう。



⑥ ③で録画した自分のスピーチを見直ししながら、表現の工夫を考える。

第3時

⑦ グループでスピーチを聞き合い、表現の工夫によって自分の考えが分かりやすく伝わったかを確認する。

⑧ 学習を振り返る。

【他学年で活用する際のポイント】

- 第2学年で、「A話すこと・聞くこと」の(1)ウの指導事項について指導する場合には、④～⑦で資料や機器を用いるなどして表現を工夫することが考えられる。
- 第3学年で、「A話すこと・聞くこと」の(1)ウの指導事項について指導する場合には、④～⑦で場の状況に応じて言葉を選ぶなどして表現を工夫することが考えられる。

【コラム①】「A 話すこと・聞くこと」の指導における〔知識及び技能〕の位置付けの工夫
～「話し方」の知識や技能を工夫として使えるようにするために～

- 〔知識及び技能〕に示されている事項は、国語で理解したり表現したりする様々な場面で生きて働くものとして身に付けるために、〔思考力、判断力、表現力等〕に示されている事項の指導を通して指導することを基本としています。

本問で求めている話し方の工夫についての知識や技能は、〔知識及び技能〕の「(1)言葉の特徴や使い方に関する事項」の小学校第3学年及び第4学年の「イ 相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。」で学習している内容です。小学校で学習した知識や技能を、中学校の学習の中で目的や状況に応じて試行錯誤しながら使うことにより、生きて働くものとして習得されます。

スピーチで話し方を工夫する際には、まず、スピーチの目的を確認し、自分が最も伝えたいことを明らかにした上で、工夫すべき部分と具体的な工夫を考えることが大切です。その際、工夫には様々な種類（使う言葉の工夫、音声の工夫、音声以外の振るまい等に関わる工夫等）があることを確認し、それを整理して示すことで、生徒は学んできたことを想起し、自らの意図に合わせた効果的な工夫をしながら、話すことができるようになります。

〔板書例〕

◎ 聞き手に自分の考えが分かりやすく伝わるように、表現を工夫しよう。

□ スピーチを通して最も伝えたいこと

（ ）を伝える。

□ 工夫の仕方

使う言葉の工夫	音声の工夫	振るまい等に関わる工夫
・ 語句の選択 ・ 言葉遣い ・ 問いかける表現 ・ 呼びかける表現 ・ 区切り等	・ 抑揚 ・ 強弱 ・ 音量 ・ 速度(緩急) ・ 間の取り方等	・ 身振り ・ 視線 ・ 表情 ・ 姿勢等

□ 工夫する意図

例

- ・ 大切な部分を強調する。
- ・ 分かりにくい部分を分かりやすく伝える。
- ・ スピーチの冒頭の部分で、話題に興味・関心をもたせる。